

令和7年 左義長 ダシ 説明

奉納町	命 題 / 【製作者】	材 料	製 作 の 意 図 の 説 明
第一区	ずい しょう 瑞 祥 【第1区有志会】	カボチャの種、焼きかま、干瓢、紫芋フレーク、寒天、パン粉、ベジタブルシート、とろろ昆布、海苔、雲平、ピスタチオ 等	古来より蛇は幸運の象徴とされており、中でも白蛇は財運や繁栄をもたらす弁財天の使いとされています。発展を表す末広がりの扇子、繁栄と未来への希望を示す宝船。これらの縁起物の中心に未来と将来を表す白蛇を製作しました。災害が絶えない世の中ですが、日本中へ幸福が訪れる兆しとなるようお願いを込め奉納します。
第二區	はく じゃ しん こう 白蛇信仰 商売繁盛を弁財天に願う 【第二區ダシ制作委員】	食パン、アメ、にぼし、あられ、カボチャフレーク、春雨、一味唐辛子、ココアパウダー	近年の日本は、様々な物価が高騰し多くの人々が財政難に苦しんでいる中、我々第二區ファミリーは、金運と商売繁盛の守り神として信仰される弁財天と、その化身である白蛇をモチーフに日本経済の繁栄と未来につながる子孫繁栄への願いと共に奉納します。
参和会	春夏冬二升五合 【参和会だし製作一同】	雲平餅、鰯シート、寒天、焼き海苔、昆布シート、タピオカ、玉ねぎ、干瓢、青のり、などなど	四季の中に秋が無いことから、「あきない(商い)」。二升は「ますます(益々)」、五合は、升の半分なので、「はんじょう(繁盛)」と読み、「商い益々繁盛」と判じて読みます。白蛇は、財運招福の神、弁財天の化身と言われ、弁財天がこの神秘的な白蛇を神使とする理由も、弁財天が持つ「再生」や「繁栄」との関係からきています。
仲屋町	諸行無常の響き 【Suwai All Stars】	金平糖、湯葉	一粒一粒に祈りを込め描かれる砂曼荼羅は、完成後の祈祷を経て、その芸術性にも関わらずすぐに壊されてしまう。作ることが目的ではなく砂を川に流し世界に祈りを届ける儀式である。腰を深く折り曲げ一心不乱に砂を落としてようやく完成したものに祈りを込めすぐに自然世界へ戻す。近江八幡の下駄の声、諸行無常の響きあり。
為心町	門 出 【為心町ダシ製作部】	食パン、焼タラシート、水飴、赤寒天、麻緒、焼海苔、干瓢、人工フカヒレ、乾燥葱、桜海老、紫芋パウダー、あおき粉	蛇の目傘は、古来より邪気を祓い降りかかる災厄から身を護る魔除けとして、また花鞠と鶴は各々未来の開花、円満長寿を意味する吉祥の象徴として、婚礼の際に用いられてきました。干支の白蛇を白無垢の花嫁に見立て、真紅の蛇の目傘に花鞠と鶴を添え、歩み出す未来が慶福に満ち溢れたものであるよう祈りを込め奉納します。
宮内町	ご こくしょう ふく じゃのめ がさ 護国招福の蛇目傘 【宮内町】	雲平、煎胡麻、黒胡麻、寒天、米あられ、海苔、スルメ、柿渋、昆布	賤ヶ岳の七本槍随一の猛将加藤清正は築城治水の技にも長け、堅牢な城と領国を築き民を安じました。彼の掲げる蛇目紋は厄災から家を守り幸福を招く象徴として今も愛されています。近年我国を襲い続ける天災地変に、清正公の魂は救世の蛇目傘となって人々を庇護し、水神の化身たる白蛇の双眸は地平天成の未来を明察します。
魚屋町	りん じ しつび 鱗次櫛比 【魚屋町青年部】	剣先スルメ、たらシート、寒天、小豆、黒豆、乾燥玉ねぎ、餡玉、パスタ、焼きのり、人工フカヒレ	鱗次櫛比と行列を作る光景は私達の日常生活の一部となっている日本の文化です。実は大変だと感じるこの行動も一緒に並ぶ相手と会話をし、その相手との仲を深める機会となっています。私達も今日の左義長祭のために何ヶ月も時間をかけてきましたが、その大変な準備期間こそが家族や仲間との絆を深める大切な時間なのです。

Welcome to Omihachiman		Sagicho Festival		
The historic district of Omihachiman centers on the old town just south of Mt. Hachimanyama. The building of a castle on the mountain’ s summit in the late sixteenth century sparked the town’ s development into a flourishing commercial hub. Between the mountain and the town is the Hachimanbori Moat, formerly a key transportation route between the town and Lake Biwa. Alongside the moat and toward the south stand the residences and storehouses of the merchants who brought prosperity to Omihachiman during the Edo period (1603–1867) by selling local wares throughout the country. Scattered among the traditional townhouses are a number of early twentieth-century Western-style buildings, most of them the work of William Merrell Vories (1880-1964), an American-born architect and missionary who settled in Omihachiman. Vories is remembered for his wide-ranging contributions to local life. The compact old town is laid out in an orderly grid pattern and easy to explore on foot.		The Sagicho Festival is a colorful and dramatic celebration with more than four centuries of history. The festival is held annually in Omihachiman to mark the advent of spring and features parades of 8-meter-high floats, which are decorated with figures of the year’ s Chinese zodiac animal sign. Lively groups wearing colorful coats carry these floats about the town and engage in trials of strength called kenka, in which pairs of floats are pushed against each other until one topples over. At the climax of the festival, the floats are burned as offerings to the deities, and participants dance around the flames. The Sagicho Festival is an expression of both community pride and Omihachiman’ s mercantile heritage: each float is made and carried by residents of a specific neighborhood, and the flamboyant appearance and grand scale of the floats were historically made possible by the wealth of the town’ s merchant families. The festival, which has been named a National Intangible Folk Cultural Property, takes place over two days on the weekend closest to March 15.		
奉納町	命 題	製作者	材 料	製 作 の 意 図 の 説 明
新町通り	子の成長を願って 【新翔会】		餃子の皮、鰯、のり、フカヒレ、黄金糖、桜えび、スルメ、押麦、とうもろこし、かぼちゃの種、玉ねぎ、板とろろ、桜澱粉、粟、もち米、黒米、あられ、紫芋、寒天、干瓢、みじん粉、タピオカ、一味唐辛子、ふりかけ、アラザン、駄菓子、金平糖、ミンツ	「飾り羽子板」は、子どもの初正月を祝う際に用いられる縁起物です。「重ね髪斗」は多くの人々からの祝福と幸せの分かち合い、「藤」は長寿、「金魚」は豊かさを表します。巳年は新しい時代の始まりとされており、次の世代の子どもたちが目まぐるしく変わるこれからの時代を笑顔で過ごせることを願って奉納します。
紫竹会	しゅんぎゅう しん じゃ 春毬と白き神蛇の舞 【紫竹左義長実行委員会】		寒梅子、押し麦、赤寒天、干瓢、マカロニ、八角、コーングリット、タピオカ、トロロシート、桜カンナ削り、ボン菓子、かぼちゃの種、みじん粉、クコの実	左義長の名の起源を紐解くと平安時代の宮中で行われた打毬に由来する。毬は円満や調和の象徴とされ、幸運を招く縁起物とされている。梅と桜をあしらった毬が舞う中、白き神蛇がしなやかに踊り、春の訪れを祝福する。歩む先には幸福の兆しが広がり、人々の願いはそっと叶えられる。私たちは世の中の安寧を願い奉納致します。
本町	ゆい 結 【本町青年会】		煮干し、干瓢、黒豆、寒天、ザラメ、コーンフレーク、オニオンフレーク、ゆかり、紫芋パウダー	結びの最中の帯は、紐帯をもって結びつく人や、共同体が変化し、新たな成長を遂げて行く様を表します。様々な挑戦に向かう姿を二匹の蛇で表現し、帯を結ぶことで次の成長段階へと進めるようお願いを込め制作しました。皆様の挑戦が実を結び、更なる成長へとつながることを祈念し、ここに奉納いたします。
池田町	さ おみき ます 桜酒け！ 御神酒いただき枡 【池田町一同】		そば、ひじき、唐辛子、かつお節、道明寺粉、かぼちゃの種、ピスタチオ、ねぎ、ごま、ふかひれ、赤寒天、米シート、粟、かんぴょう	日本古来から豊穰を願い神に供えた酒を回し飲み、酔う感覚が、神と人を結びつけるとされてきた。本年は、神の使いとされる白蛇に注がれた御神酒をいただき、天下の奇祭らしく遊興にふける様を表現し、製作した。春の訪れを象徴する桜と共に左義長祭りが未来永劫に咲き誇るように祈願し、奉納する。
十區會	りゅう ほう ていしょう 龍鳳呈祥 【十區會左義長実行委員会】		ゼラチンシート、黒米、タラシート、にぼし、たつくり、のり、ホワイトチョコ、ドライマンゴー、ドライレモン、雲平もち	再生や繁栄の象徴とされる蛇に加え、蛇と深い繋がりががあるとされる龍と相性の良い鳳凰を題材に作成致しました。神の使いである蛇と共に、英知・幸福の番人とされる龍に、至福・吉祥を招くとされる鳳凰。三位一体となり、この地に豊穰をもたらし、踊り子達の長久の繁栄を願って奉納致します。
第十一区	さい ふつ ふくしょう しろ へび 「災祓福招」の白蛇 【制作有志】		スルメ、干びょう、ブラックベツパー、キヌア、ポップコーン、桜エビ、青のり、黒胡麻、小豆、黒豆、もち米、しじみ貝、道明寺粉、黒海苔、白板昆布、寒天、ふ菓子、トマト、ガム など	繊細な透かし彫りと華麗な末広がりの白檀扇子、また赤短冊の花札は一月松・二月梅・三月桜の厳冬と左議長の春を表現し文字あかよろしは「明らかに良い」の意味があります。この縁起物に財運繁栄の象徴・白蛇を配しました。いざ踊り子よ、瓢箪の酒をめでたい盃で祝し、災いを蛇の如くクネクネとすり抜けて景気づけよう！